

# NEWS

国立新美術館 ニュース

2014  
— 秋号

[www.nact.jp](http://www.nact.jp)

## 「チューリヒ美術館展」 会場づくりの ひみつに迫る

展覧会担当研究員インタビュー

緑と光の溢れる  
「森の中の美術館」

新

THE  
NATIONAL  
ART CENTER,  
TOKYO

国立新美術館

# EXHIBITION

展覧会

日本最大級の展示スペースを生かし  
多彩な展覧会を開催しています

シロト、ネキ「睡蓮の池、夕暮れ」1916/22年  
Photo: Dominic Butner



## 「チューリヒ美術館展」 会場づくりの ひみつに迫る

スイスが誇るチューリヒ美術館の所蔵品の中から、世界屈指の近代美術のコレクションを日本で初めてまとめて紹介する「チューリヒ美術館展」。その会場づくりに秘められた想いを本展担当研究員に聞きました。

### — 出展作品はどのように決めたのですか？

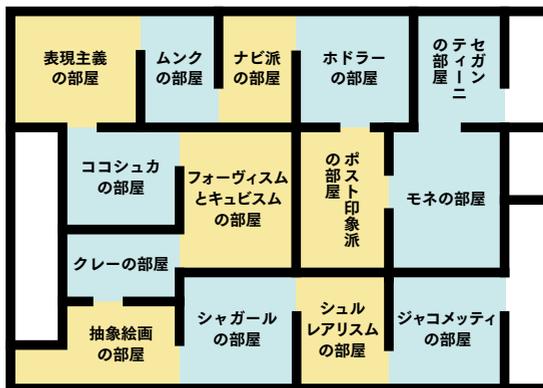
チューリヒ美術館から借りる作品もテーマも日本側に委ねられ、3、4年前から企画し始めました。本展担当研究員が20世紀美術を専門としていたことから、同美術館にはその時代の優れた作品があることから、モネの《睡蓮の池、夕暮れ》を展示導入部の中心に据え、印象派から

シュルレアリスムまでの近代美術の歴史を辿る形で作品を選びました。

### — 展示で工夫した点はどんなことですか？

現地のチューリヒ美術館では白い壁に作品が展示されていますが、本展でも当館の白い壁を活かしてあえて壁には色をつけず、モダンな感じにしています。

また、20世紀のヨーロッパ美術の動向がわかる展示にしました。フランスの印象派の影響が大きかったヨーロッパにおい



「チューリヒ美術館展」会場図面

巨匠の部屋

時代の部屋

て、フランス以外の地域の作家がそれをどのように受容して、どういった表現をしていったのかを見せています。

さらに、チューリヒ美術館は特定の作家の作品をまとめて所蔵していることが特徴なので、作家ごとの部屋をつくりました。これを各時代の美術の運動や流派を紹介する部屋と交互に配置して、時代の中で各作家の作風がどのように変遷したか確認できるようにしました。

このように細かく部屋を区切ることができたのも、壁の位置を自由自在に変えられる国立新美術館の展示室の特徴を反映しています。



アウグスト・ジャコメッティ《色彩のファンタジー》  
1914年 ©2014 Kunsthaus Zürich. All rights reserved.

— 作家の部屋の中でも時代の変遷が感じられるのは面白いですね。

例えば、ジャコメッティの作品は細長い身体像が特徴ですが、重量感のある幾何学的形態としてデフォルメされた身体像の《スプーン型の女》は、細長いジャコメッティ・スタイルが確立される20年前の作品です。今回はこの初期の作品からスタイル確立後の代表作までが展示され、試行錯誤を経て独自の造形を探索した足跡を感じ取ることができます。

## CURATORS' VOICE



国立新美術館研究員

山田由佳子に

注目の作品を聞きました。

アルベルト・ジャコメッティの父ジョヴァンニのいとこにあたるアウグスト・ジャコメッティも美術家で、主に装飾芸術の分野で活躍しました。本展には、このアウグストが1914年に制作した《色彩のファンタジー》も出品されます。1910年代といえば、ドイツで活躍したロシア出身のカンディンスキーやオランダのモンドリアンなどによってヨーロッパ各地で抽象絵画が誕生しますが、アウグストの作品はまさにこの時期に制作されたものです。実は、アウグストは1800年代の終わりには、パステル画によって現実の再現から離れた抽象の画面に到達していました。油彩画に取り組むにはそれから10年以上の歳月を必要としました。本展では、その代表的な油彩画から、アウグストの革新性と独自性が確認できます。日本ではほとんど知られていない作家ですので、ぜひ注目してみてください。

## チューリヒ美術館展

— 印象派からシュルレアリスムまで

会 期：2014年9月25日(木)―12月15日(月)

休 館 日：毎週火曜日(ただし10月14日は開館)

開館時間：10:00～18:00 金曜日は20:00まで開館

※入場は閉館の30分前まで

会 場：国立新美術館 企画展示室1E

# EDUCATION

教育普及

美術に親しむワークショップや講演会の開催、鑑賞ガイドブックの配布などを行っています

## 体験を通じて出会う、 アートの新しい魅力 展覧会関連ワークショップ

国立新美術館では、展覧会にあわせて、アーティストやデザイナーによるワークショップを実施しています。「魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展」（9月1日まで開催）では、関連ワークショップ「2.5D 着られるイラスト バレエ・リュス ペーパーチュニックコレクション2014」を開催。参加者はバレエ・リュス展からヒントを得ながらグループで話し合いを重ね、ペーパーチュニックのコレクションを制作しました。アーティストと直に接しながら、表現することや創造することの面白さを体験するワークショップは、いつもと違った視点でものを見つめ、自分と向き合うこと



を通じて、アートの新たな魅力を発見できる場でもあります。開催中の「チューリヒ美術館展」では、作品の中に広がる世界に想いを馳せ、自分を主人公にした物語を創るワークショップを開催します。新たな視点でアートに触れ、展覧会をもっと楽しむきっかけとなるワークショップに、今後ご期待ください。



バレエ・リュス展関連ワークショップの様子

### チューリヒ美術館展関連ワークショップ アート de じぶんえほん

日時：10月26日(日) 13:00～16:00

講師：なかがわちひろ（絵本作家・翻訳家）

対象：小学校3年生から高校生まで

事前申し込み制です（10月14日締切）。その他のイベント情報や申し込み方法については、国立新美術館ホームページ（<http://www.nact.jp/>）や館内のチラシをご覧ください。

## アートライブラリー別館閲覧室へ行こう！ ～入室方法のご案内～

美術館の向かい側にある別館1階の「アートライブラリー別館閲覧室」では、1945年以前に刊行された展覧会カタログ、休刊・終刊した雑誌、復刻版雑誌、マイクロ資料、美術館・博物館の年報や紀要、アーティスト・ファイル展関連資料、画廊経営者の故・山岸信郎氏や美術批評家の故・針生一郎氏の旧蔵資料等がご覧いただけます。

今回は、この別館閲覧室への入室方法についてご案内いたします。

1. 筆記用具・貴重品以外の荷物はロッカーにお預けください（100円玉は使えません。ロッカー用のメダルをカウンターでお渡しします）。
2. カウンターの入室記録簿にご記入ください。
3. スタッフが番号札をお渡しします（閲覧室内では番号札を見えるところに身に付けてください）。

入室にお手数をおかけいたしますが、貴重な資料もありますので、ご協力をお願いいたします。一部の資料は事前予約制となっています。アートライブラリー別館閲覧室では、今後も皆様のご利用を心よりお待ちしております。



国立新美術館別館入口



アートライブラリー別館閲覧室カウンター



入江明日香《Le Petit Cardinal》(部分)  
2014 丸沼芸術の森蔵 撮影:早川宏一

## 未来を担う美術家たち 17th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果

会期: 2014年12月13日(土)―2015年1月25日(日)

主催: 文化庁、国立新美術館、読売新聞社、  
アート・ベンチャー・オフィス ショウ

会場: 企画展示室2E

文化庁の「芸術家在外研修(新進芸術家海外研修制度)」により美術の研修を修了した作家たちの発表展です。絵画、インスタレーション、アニメーションなど様々なジャンルの12作家が展示を行うとともに、今回初めて「保存・修復」での研修者3名の発表も行います。



第18回  
文化庁  
メディア芸術祭

18th JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL

## 第18回文化庁メディア芸術祭 The 18th Japan Media Arts Festival

会期: 2015年2月4日(水)―2月15日(日)

主催: 文化庁メディア芸術祭実行委員会

会場: 企画展示室2E

文化庁メディア芸術祭は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門において、世界中から作品を募集。厳正な審査で選ばれた作品群の展示・上映・イベントを通じて、同時代の芸術や文化をより深く理解するための新たな発見を促します。



ヨハネス・フェルメール《天文学者》1668年  
ルーヴル美術館蔵 Photo © RMN-Grand  
Palais / René-Gabriel Ojéda / distributed  
by AMF - DNPartcom

## ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄

会期: 2015年2月21日(土)―6月1日(月)

主催: 国立新美術館、ルーヴル美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社

会場: 企画展示室1E

ルーヴル美術館所蔵の約80点の作品によって、ヨーロッパ風俗画の多様な展開をたどる展覧会です。初来日となるフェルメール《天文学者》のほか、ティツィアーノ、レンブラント、ムリーリョ、ヴァトー、ミレーなど、各国・各時代を代表する巨匠たちの名画が一堂に会します。

公募展

公募団体等の活動

## 「日本アンデパンダン展」

日本アンデパンダン展の語源はINDEPENDENT、芸術に対する権威や制度的意識からの自由・独立・解放をめざして戦後間もない1947年に始まり、開設以来自由出品・非審査制を貫いてきました。



第66回展(2013年)会場風景

国立新美術館での開催になって以来毎年出品者数は700数十人以上、出品作品数は1100点以上、鑑賞者数は最近では2万人前後とにぎわっています。

この展覧会の特徴は絵画、彫刻のほか工芸、インスタレーション、パフォーマンス等幅広いジャンルの作品が展示され、多くの方々に楽しんでいただける内容になっています。賞を設けない事も特徴の一つです。賞を設けなくても優れた作品には美術家や鑑賞者から高い評価が集まります。この展覧会では美術家同士、美術家と鑑賞者の相互評価の中から新たな価値を求めていくことをめざしています。私たちは今後ともわが国の美術が自由に大きく発展する事を願って、活動を継続してまいります。

(日本美術会)

## 館内レストラン & カフェにて、 「チューリヒ美術館展」 特別メニューを提供

館内4店舗で、「チューリヒ美術館展」にちなんだ特別メニューを提供します。名画の数々の鑑賞後は、その余韻を味わうお料理やお飲みもお楽しみください。夕方からの鑑賞後、ディナータイムのレストランのご利用もおすすめです。



ゴッホ作「サント・マリーの白い小庭」をイメージしたお魚料理（3階レストラン）

## 「その親密さといったら」 2014年10月22日(水)～2015年1月19日(月)

温かい飲み物がおいしく感じられるこれからの季節。B1階・SFTギャラリーでは、4名の作家さんによるマグ、ティーカップ、プレートなど、冬のお茶の時間を楽しむためのさまざまな器をご提案します。

出品作家：伊藤聡信、清野学、中園義光、一柳京子(あいうえお順)



## PICK UP ピックアップ

### 緑と光の溢れる「森の中の美術館」

建築家・黒川紀章氏が設計した、波打つガラスカーテンウォールや逆円錐（コーン）が特徴的な国立新美術館。その建物のコンセプトは「森の中の美術館」です。外の光がたっぷり差し込み、時間ごとに違う表情を見せる館内。床には、ウリンとい

う丈夫なクスノキ科の木材を使用しています。敷地内には50種以上の植物があり、美術館では珍しい落葉樹のケヤキやサクラ、そして沈丁花や紫陽花などの花も植栽されています。秋には金木犀やイロハモミジの紅葉が見ごろとなります。ぜひ探してみてください。

